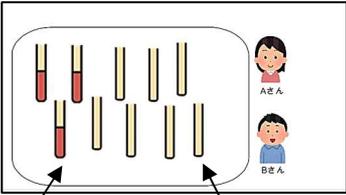
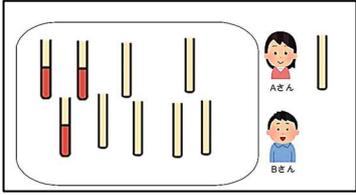


教材・支援機器活用実践事例【ICT】

文章題で示された状況の把握をするための ICT 活用 「Jamboard による文章題の理解」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校 高等部 2 年（通常学級）
	障がい名等	病弱
	子どもの実態 （学習上又は生活上の困難さ等）	<ul style="list-style-type: none"> 文章題から状況を理解し、立式することが難しい。 文章題から読み取れることを板書で図に示しても、視覚的な提示が多くなると、読み取りが難しくなる。
授業について （教材・教具を使用した授業や指導場面）	教科名等	数学 A
	単元(題材)名	単元名「場合の数と確率」
	単元(題材)の概要	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
教材・教具支援機器について	教材・教具 支援機器	<ul style="list-style-type: none"> Jamboard を用いた文章題で示された状況の把握 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>3本の当たりくじを含む10本のくじの中から、AさんとBさんがこの順に1本ずつ引く。このとき引いたくじは戻さないものとする。Aさんが当たる確率とBさんが当たる確率を求めよう。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>当たりくじ はずれくじ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>Aさんがはずれくじを引いた後、 Bさんが当たりくじを引く確率を 考察する場面</p> </div> </div>
	ねらい・工夫点	<p>〈ねらい〉</p> <p>○「条件つき確率」は2つの連続した試行において、2つ目の試行に着目することが必要であるため、生徒自ら操作することによって、「今は袋の中にくじが何本あるか」を考察しやすくする。</p> <p>〈工夫点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> くじが入っている袋などは背景に設定して動かないようにした。くじはドラッグやコピーなどの操作できるようにし、状況を理解しやすくした。
	材料・作成方法等	タブレット端末、アプリ（Jamboard）
子どもの変容や評価	<ul style="list-style-type: none"> 文章題で示されている状況が分かり、玉やくじの数を自分から数え、主体的に取り組もうとしていた。 実物を用いるよりも、単純化されているので理解しやすく、個数等も数えやすかった。また、簡単に玉やくじの数を変えることができるので、新しい問題を自分から作成することができた。 	